

## ■ 第3回口腔心身リエゾン談話会に参加して ■

栗栖 諒子 Ryoko Kurisu

東京医科歯科大学病院 歯科ペインクリニック

第3回口腔心身リエゾン談話会は、2022年11月13日(日)、Zoomにて開催された。当日は、全国から医師、歯科医師、公認心理師、歯科衛生士など約50名が参加し、3人の専門家の講演と熱心な討論が行われた。

3回目になる談話会では、今回も心理学、歯学、そして、医学領域から高名な先生方のお話を聞くことができ、患者を診るうえで大変勉強になった。当日の概要を紹介する。

最初に東京大学大学院教授の高橋美保先生(公認心理師)は、2021年度より神奈川歯科大学の事例検討に参加されているご経験から、歯科臨床の実感を述べられた。

患者の訴えと歯科医師の診断が一致しない場合があり、その要因としては、

- ① 痛みの訴えに違和感などが含まれており、痛み自体を捉えることが難しい
- ② 個人的な体験である痛みを、人に伝えることが難しい
- ③ 痛みに対する患者なりの意味付けの問題などが考えられる

とした。そして、患者-医療者間で症状がどのように難治化していくのかをともに考えていくことの必要性を提言された。

また、連携の形としては、現行のコンサルテーションは患者と医療者Aは直接的な関係で、医療者Bとは間接的な関係を築くが、将来的な形とし

てのコラボレーションは、医療者AとBが対等に関わることが紹介された。

次に和嶋浩一先生(元赤坂デンタルクリニック院長、口腔顔面痛専門医)が、「患者の不安感が痛みを亢進」と題し、慢性疼痛の治療における解釈モデルの把握の重要性を強調された。そして、患者にとって腑に落ちない医療者の説明や納得できない対応などが痛覚を亢進させるカスケードを解説された。

また、患者の解釈モデルと歯科医師の病態説明にズレがあると、混乱や不安が高まる。さらに、自分の言うことを信じてくれないと不安感が増す機序をわかりやすく示された。私には、「Reassurance(繰り返し安心させること)により、不安感を少しでも減らすことが治療のはじまり」という言葉

が印象的だった。

最後に、杉本是明先生(黒松内科すぎもとクリニック院長、心療内科医、公認心理師)が、「医学と歯学の歴史から考える口腔領域の心身症における“医歯協働”の未来」という題で話された。

杉本先生は明治時代から続く歯科医師のご家系で、当時の貴重な資料とともに医科と歯科の二元化の歴史を紹介された。さらにわが国の歯科・口腔心身医学の歩みを、医科における心療内科の歩みを踏まえながら説明され、現在の歯科における心身医学療法、保険診療、教育体制についても問題提起された。また、医療における協働の形について示された。

講演後も議論が自然し、あっと言う間の3時間であった。

### 【第4回口腔心身リエゾン談話会の開催のお知らせ (Zoom開催)】

◆日時: 2023年4月9日(日)、13~16時

◆講師:

清水栄司先生(医学領域) 千葉大学大学院 医学研究院 認知行動生理学教授  
川上恵子先生(心理学領域) 黒松内科すぎもとクリニック 心理カウンセラー  
玉置勝司先生(歯学領域) 神奈川歯科大学 総合歯科学講座 顎咬合機能回復分野教授

◆事務局: 神奈川歯科大学(内)玉置勝司(仲井太心・安田卓史)

E-mail: oral.psycho.liaison.discussion@gmail.com

※入会・参加を希望される方は、メールで事務局までご連絡下さい。

◆世話人: 和気裕之・島田 淳・杉本是明・玉置勝司・石井広志・岡本彩子・仲井太心・安田卓史

